

公の施設目標管理型評価書（新潟市北区文化会館）

施設名	新潟市北区文化会館		
管理者名	NKS・ハビスカとよさか共同事業体	指定期間	令和2年4月1日 ~ 令和7年3月31日
担当課	北区産業振興課		
所在地	新潟市北区東栄町1丁目1番5号		
根拠法令	—		
設置条例	新潟市北区文化会館条例		
施設概要	建築年 平成22年 敷地面積 24,520平方メートル 建築面積 4,427平方メートル 延床面積 4,708平方メートル 鉄骨鉄筋コンクリート造（一部鉄骨造・鉄筋コンクリート造）2階建 ホール（収容人員549人。ほか身障者スペース8席）、練習室4、楽屋3、保育室、会議室 他 敷地内施設 駐車場（314台）、園路、広場、植樹帯など		

施設設置目的
音楽、演劇等の鑑賞又は創作活動の機会を提供し、もって市民の芸術文化活動の発展に資するため、新潟市北区文化会館を設置する。
管理・運営に関する基本理念、方針等
(1) 文化事業 「市民の芸術文化活動の発展」という設置目的を果たすため、常に新鮮でかつ安定した文化事業の運営に努める。 【重点事項】 <ul style="list-style-type: none">優れた音楽、演劇等の舞台芸術の鑑賞機会の提供創作活動の機会の提供と参加の促進地域に根ざした文化の発信文化を通じたひとづくり・まちづくりによる賑わいの創出
(2) 施設運営 貸館に関する業務、ホール業務及び館内業務を行う。 【重点事項】 <ul style="list-style-type: none">貸館に関する業務の円滑化を図るため、利用希望者の使用条件等を勘案し、公の施設として公平性に配慮しつつ必要に応じた調整舞台機構設備、舞台照明設備、舞台音響設備等及び備品の日常点検並びに管理を行うとともに、それらの操作に精通し、利用者に対し安全で、高度なサービスを提供来館者の満足度を向上するため、様々なサービスの提供
(3) 施設管理 施設設備や舞台設備などの施設管理については、日常点検を行うなど、常に良好な状態及び性能を維持するとともに、効果的かつ効率的な管理を行う。 【重点事項】 <ul style="list-style-type: none">施設設備等の保守管理業務清掃業務等の環境維持管理業務効果的かつ効率的な管理運営執行体制の確保専門的職員の配置適切な執務体制人材育成の取組

令和5年度 目標管理型評価書

視点	評価項目	評価指標	実績	評価	評価コメント
市民	情報発信	情報誌の発行 年6回以上	H Pにて随時情報発信 窓口配布催事案内情報誌を発行	A	指標を大幅に上回っている
	基準稼働率の達成	ホール・練習室等の稼働率 年間65%以上	ホール・練習室等の稼働率73%	A	指標を大幅に上回っている
	各種サービス別満足度	利用者アンケートで「満足」が90%以上	施設評価99% スタッフ評価99%	A	高い満足度を維持している
	苦情・要望に対する対応	苦情・要望には7営業日以内に回答	関係機関と連絡を取りながら即日から7営業日以内に対応	B	
	文化事業の実施	管理・運営に関する基本理念、方針等（1）文化事業の【重点事項】に記載の4項目に合致する指定管理文化事業を以下のとおり実施 事業数：12事業以上 事業費（支出ベース）：23,100千円以上	鑑賞事業8事業＋創造事業4事業＋普及育成事業8事業＋交流発信事業10事業＝合計年間30事業 総事業費は22,593千円となり、事業数は多かったが、目標額に届かなかった。	C	事業数は目標数を大幅に上回ったが、事業費は目標に達しなかった。
財務	施設管理運営経費の削減	管理運営経費を年間79,505千円以下	新型コロナウイルスの5類移行にともない、会館利用者数が増加した。電気、ガス共に前年より使用量が少なくなったが、単価が高騰しているため予算より3,000千円の増加となった。また、人件費、修繕費など必要な部分が増加したため管理運営経費が85,730千円と評価指標目標額をオーバーした。	C	光熱費の単価高騰や人件費、修繕費が増加したため目標が達成できなかった。
	適正な財政運営	収支計画に基づく収入の確保及び経費の執行	収入予算105,967千円。 収入決算108,802千円。 支出予算105,967千円。 支出決算108,324千円。	B	
	安全管理責任者の配置と安全確保体制の確立	常時、危機管理責任者を配置し、防災・避難訓練を年2回以上実施	危機管理責任者：高坂館長 防火管理者：斉藤主任 11/29、3/19の2回防災避難訓練を実施。日常的な危機管理意識訓練を励行させて、消防機関と情報交換するなど、適切な危機管理を実践している。	B	
業務	事件・事故発生時の対応の適切さ	迅速な対応と、再発防止策の策定	7/25 受水槽圧力膨張タンク破裂、8/28 ハイサイド排煙窓開放 1/1能登半島沖地震などそれぞれの事件・事故発生時に適切に対応した。	B	

	業務仕様書等に定める事項の遵守	その他業務仕様書等に定める事項の遵守	安全、節約等考慮しつつ、その他業務仕様書等に定める事項を遵守し、市民視点で仕様書に定められた事項以上の業務執行を心がけ実施した。	B	
人 材	職員研修の実施	外部・内部研修の実施 1人あたり2回以上	毎朝礼時のOJTの実施はもちろんの事、外部研修会への参加をした。オンラインでの研修会を積極的に活用し、一人あたり2.3回の研修を受講することが出来た。	B	
	労働基準の充足	労働関係法令の遵守	遵守に努め、労務環境関係の充実に努めた。適正な労務管理改善を図り、労働関係法令を遵守した。	B	

指 定 管 理 者 記 載 欄 (アピールしたい事項・未達成項目への改善策等)

令和5年度の文化事業については、これまで同様市民に喜ばれる音楽・演劇などの「鑑賞事業」、少年少女合唱団やジュニア吹奏楽団演奏会などの「創造事業」、区役所ロビーコンサート、区内小中学校巡回のアウトリーチなどの「普及育成事業」、北区内で活動する市民サークルの発表会である、北区音楽祭などの「交流発信事業」に取り組んだ。全30事業を計画しすべてを実施することが出来た。

「鑑賞事業」では子供や親子向けにヒネモス「奇想天外なおもちゃの楽隊」や0さいからのMusic&Storiesを実施した。また、3月に太田裕美スプリングコンサートin新潟を実施した。チケット発売前から県外からの問い合わせが非常に多く、チケットを完売することができた。

「創造事業」では、オリジナル脚本による市民劇 もういちど会いたい～星空の約束～を10月に実施した。昨年度3月にオーディションを行い、4月から稽古を重ね10月の公演を迎えた。入場者アンケートでは、再上演を望む声が多数寄せられた。

「交流発信事業」では北区少年少女合唱団、北区ジュニア吹奏楽団ともに団員が増加した。どちらも年齢層が幅広く、低学年の児童もいるが、合同演奏会や、北区音楽祭、ジュニアコーラスフェスティバルなど発表する公演に向けて高学年の団員が率先してフォローする姿を多く見る事ができた。

施設運営においては、年間来館者数が95,000人を超え、北区文化会館設立からの年間最大入館者数となった。貸館業務ではコロナ5類移行にともなうサークル活動の活性化も増員の要因となった。ロビー利用者では、周辺地域、特に区役所のイベントの開催に伴い飲食ブースやトイレ利用などによりロビー利用者が増加した(キテミテキタク、しるきいもマルシェ、あったかマルシェ葛塚鍋の陣など)。しかし、昨年からの光熱費高騰について今年度は基本料金の値上げがあり、指定管理費を大きく上回った。

施設管理においては、築14年を過ぎ、業者点検でのオーバーホールについての提案や、設備入替の提案が多くなってきている。会館上部の排煙窓についても作動不良が見られたため、ワイヤーをすべて交換した。また、ホール反響板の化粧シートが夏の異常気温ではがれてきたため、落下の恐れを考慮し修繕を行った。その中で急を要するものが外壁のひび割れである。雨水の浸透が昨年以上に増加し、内壁にカビが発生している状況は放置すべきではない。一刻も早い処置を講じていた

総 合 評 価 (所 見)

新型コロナウイルス感染症に対する規制が緩和され、コロナ禍以前の施設運営に戻り、文化事業が目標を大きく上回る30事業が実施できている。なかでも、太田裕美コンサートなどチケットが完売する事業もあり、利用者のニーズを捉えた事業運営ができている。

令和5年度は、市民劇の開催にあたり、出演者のオーディションを行うところから始め、公演後のアンケートでは再上演を望む声が多数届くなど大変好評であった。文化会館事業のほか、文化会館を会場とするイベントや区役所、周辺地域と連携したイベントなど、利用者数の増加に向けた新たな取り組みを行ったことにより、過去最大の施設利用者数となった。

なお、昨年からの光熱費の高騰による施設管理費の増加、外壁のひび割れに代表される施設・設備の老朽化など課題が山積しているが、施設の利用者数や稼働率の増加に向け取り組んでいる。利用者のニーズを捉え、地域の賑わい創出と魅力ある施設づくりを行い、北区の文化活動の発展に多大なる貢献をいただいた。